令和元年度　学校評価分析

児童

| 評価値 | 評価項目 | 成果・課題 |
|---|---|---|
| １．６ | 友達と仲良く遊んだり勉強をしたりしている。 | 個人的ないさかいはあっても、総じてやさしく友達思いの子が多い。<br>逆に気持ちが弱く、厳しい環境に自ら飛び込む子が少ないかもしれない。 |
| １．６ | 将来の夢をもっている。 | 生き方についての道徳や総合的な学習の成果が出ている。キャリア教育をさらに意識して内容を検討していきたい。 |
| １．５ | 学校や社会のルールを守って生活している。 | 90％の子が守っていると答えている。楽しい集団生活を送る上で必要なことは理解できている。10％の子への個別指導が結果の後追いでなく、予防的な指導になるようにしていきたい。 |
| ０．８ | 正しい姿勢で生活している。 | 低い評価値で残念である。保護者の評価はさらに低くなっており、教職員の多くも普段意識していないのであろう。次年度への大きな課題である。 |
| ０．９ | 友達の考えを聞き、自分の考えを広げている。 | 現職教育の授業で培った力が他への広がりに欠けている。教師ができていると思っていても、子どもはまだ自信が持てていないのだろう。 |
| 昨年比 | 昨年比でほぼ全ての項目が０．１ポイントの変動になっている。５項目が上昇、２項目が下降で、全体としては上昇傾向にあり、教育効果があったことはよかった。 | |

保護者

| 評価値 | 評価項目 | 成果・課題 |
|---|---|---|
| １．５ | 子どもに思いやりの心が育っている。 | 学校教育に限らず家庭教育もしっかりできていると考えられる。保護者としては安心して学校に送り出せるのではないか。 |
| １．５ | 同級生や近所の友達と協力できる。 | 全体として見ると落ち着いて仲のよい生活が送れている。学年が上がるに従ってぶつかり合うことは当然起こっており、それを乗り越えて成長していってほしい。 |
| ０．１ | よい姿勢で生活している。 | 全項目の中で最も低い結果である。学校での姿勢だけでなく、家庭での子どもたちの様子が目に浮かぶ。せめてテレビや本を読む時は注意させたい。 |

| | | |
|---|---|---|
| ０．５ | 生き物や自然の保全を意識している。 | 犬猫を始めとしたペットを愛する心情は豊かであると思うが、自然の中の生物にはそれほど興味がなく、個人差が大きい。生物とふれ合う体験を増やす必要がある。 |
| 昨年比 | 昨年比で一番上がった項目が「あいさつ」である。児童は若干下がっているが、家庭や地域ではできるようになってきていると感じられている。逆に、将来の夢や希望に関する家庭での会話がないようだ。キャリア教育を授業公開していく必要がある。 | |

教職員

| 評価値 | 評価項目 | 成果・課題 |
|---|---|---|
| １．９ | 児童を認め、ほめ、叱り、励まし、伸ばす教師であろうとしている。 | 全員が肯定側になっており、児童を指導する基本姿勢を共通理解できている。この姿勢が児童や保護者に正しく伝わるよう、より具体的な方法へと改善が必要である。 |
| １．８ | 相手を思いやり、共に生きようとする児童の育成に努めている。 | 互いの思いを伝え合える個人･集団を作っていくことが、学級経営の根幹である。学級集団が学校全体そして地域へと広がっていけるよう、引き続き取り組んでいく必要がある。 |
| １．８ | 児童とともにある教師であり続けようと努めている。 | 授業中だけでなく放課や児童会行事を見ていると、児童と一緒に活動している姿が多く見られる。ときには児童の目線に降りて、一緒に活動する姿から児童の信頼感が育っているに違いない。 |
| ０．７ | 教職員の多忙化解消は進んできている。 | どちらかと言えば進んでいるが８０％。全体では進んできているが、校務分掌の変更によっては逆に忙しくなる場合もある。人的増加がない場合は、仕事にきりをつけるポイントを各自が設定する必要がある。また、評価に関する内容の再考も必要と考える。 |
| 昨年比 | １０項目中９項目で評価値が上がった。また、否定的にとらえている回答は２項目にしかなかった。教師の意識が前向きであることは大変よい傾向である。ただし、今年多くの職員が異動で入れ替わっているので、来年度の比較が重要になってくる。また、新しい校務分掌に苦労も多かったと思われるので、併せて２年目の来年度に多忙か解消も進んでいくように努力したい。 | |